

21世紀 COE プログラム

国際シンポジウム

京都大学大学院文学研究科
「グローバル化時代の多元的人
文学の拠点形成」

【日時】
10月25日[土] 14:00 - 17:30

宗教間対話と平和思想の構築
現状と課題

【会場】
京都大学文学部新館
第7講義室

【司会・コーディネーター】
芦名定道
京都大学助教授(キリスト教学)

【パネラー】
氣多雅子
京都大学教授(宗教学)
金 文吉
釜山外国語大学教授
許 油
大韓仏教研究所所長

【コメンテーター】
落合恵美子
京都大学助教授(社会学)
岩城 聡
京都大学大学院
博士課程(キリスト教学)

来聴歓迎

主催 = 21世紀 COE プログラム

< 多元的世界における寛容性についての研究 > 研究会

【事務局】
京都大学大学院
文学研究科社会学研究室

Tel: 075 - 753 - 2758
Fax: 075 - 753 - 2836
E-mail: tolerance-hmn@bun.kyoto-u.ac.jp
URL: <http://bun.kyoto-u.ac.jp/tolerance>

趣旨

1990年代以降、世界における紛争は、宗教や民族と様々な結びつきのうちで発生し、宗教はその際にしばしば衝突の主要な原因のひとつとして挙げられている。もし、本来宗教が平和を目指し、紛争の解決を目標とするものであるとするならば、それぞれの宗教が自らの伝統から未来の世代のためにいかなる平和思想を構築するかは、各宗教に課せられた責任と言えるであろう。また宗教的多元性を背景とした宗教間対話の意味は、平和など、社会全体が共有する諸問題に対して、積極的に寄与することにうちに、見出すことができるように思われる。本シンポジウムでは、こうした問題意識に立って、宗教が平和思想の構築に対して何を語りうるのか、何をなし得るのかについて、それぞれの学問と実践のフィールドから発言と討論を行い、問題の理解を深めることを意図している。

本シンポジウムの討論は、次のような観点を含むことになる。

- (1) 東アジアという視点
- (2) 宗教的多元性と寛容という観点
- (3) 平和思想と宗教間対話との関わりという観点

シンポジウムでは、日本と韓国において宗教間対話に関心をもって研究や活動を行ってきた3人のパネラーを迎え、それぞれの立場からの提題をいただく。これらの提題を基礎にして、二人のコメンテーターからコメントの後、フロアーからの質疑を含めて、活発な討論を行いたい。

プログラム

シンポジウムの趣旨説明

芦名定道（コーディネーター・京都大学大学院文学研究科助教授 キリスト教学） 「宗教的多元性と平和思想 - キリスト教の場合」

第1部：パネラーからの提題

1. 「日本仏教者と平和思想」 氣多雅子（京都大学大学院文学研究科教授 宗教学）
2. 「内村鑑三の平和思想と朝鮮無教会の動向」 金 文吉（釜山外国語大学教授）
3. 「朝鮮仏教の対話と平和思想」 許 油（大韓仏教研究所所長・法然院住職）

第2部：討論

1. コメンテーターからのコメント
落合恵美子（京都大学大学院文学研究科助教授 社会学）
岩城 聡 （京都大学大学院文学研究科博士後期課程 キリスト教学）
2. 討論
3. フロアーから

京都大学・本部キャンパスへのアクセス

京阪出町柳駅から・・・東へ徒歩 15分

京阪三条駅から・・・市バス 11 系統「京大正門前」下車

阪急河原町駅から・・・京阪「出町柳駅」下車、東へ徒歩 15分 又は、市バス 11・31 系統「京大正門前」下車

JR 京都駅から・・・市バス 206 系統「京大正門前」下車 又は、市バス特 17 系統「百万遍」下車

